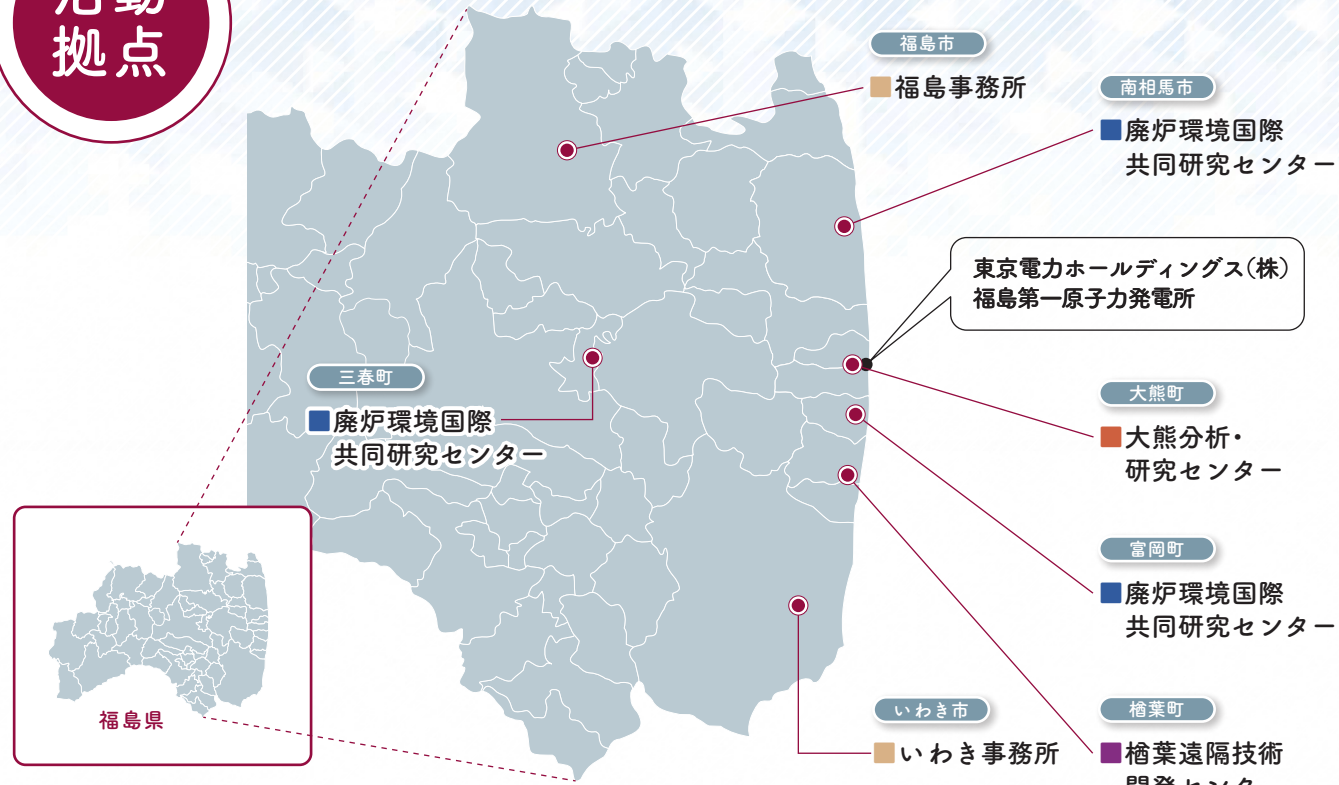


活動拠点



国立研究開発法人日本原子力研究開発機構
福島研究開発部門



国立研究開発法人日本原子力研究開発機構

福島研究開発部門



MORE INFORMATION

<https://fukushima.jaea.go.jp/>

福島研究開発拠点

■ 廃炉環境国際共同研究センター (CLADS)

- 富岡(国際共同研究棟)
〒979-1151
福島県双葉郡富岡町大字本岡字王塚790-1
TEL.0240-21-3530 FAX.0240-22-0100
- 三春(福島県環境創造センター内)
〒963-7700
福島県田村郡三春町深作10-2
TEL.0247-61-2910 FAX.0247-62-3650
- 南相馬(福島県環境創造センター内)
〒975-0036
福島県南相馬市原町区萱浜字巢掛場45-169
TEL.0244-25-2072 FAX.0244-24-2011



MORE INFORMATION

<https://clads.jaea.go.jp/>

■ 楡葉遠隔技術開発センター (NARREC)

〒979-0513
福島県双葉郡楡葉町大字山田岡字仲丸1-22
TEL.0240-26-1040 FAX.0240-26-1041



MORE INFORMATION

<https://naraha.jaea.go.jp/>

■ 大熊分析・研究センター

いわき事務所取扱い
TEL.080-4651-1911(センター直通)
FAX.0240-32-7630



MORE INFORMATION

<https://fukushima.jaea.go.jp/okuma/>

■ いわき事務所

〒970-8026
福島県いわき市平字大町7-1
平セントラルビル8F
TEL.0246-35-7650 FAX.0246-24-4031

■ 福島事務所

〒960-8031
福島県福島市栄町6-6
ユニックスビル7F
TEL.024-524-1060 FAX.024-524-1069



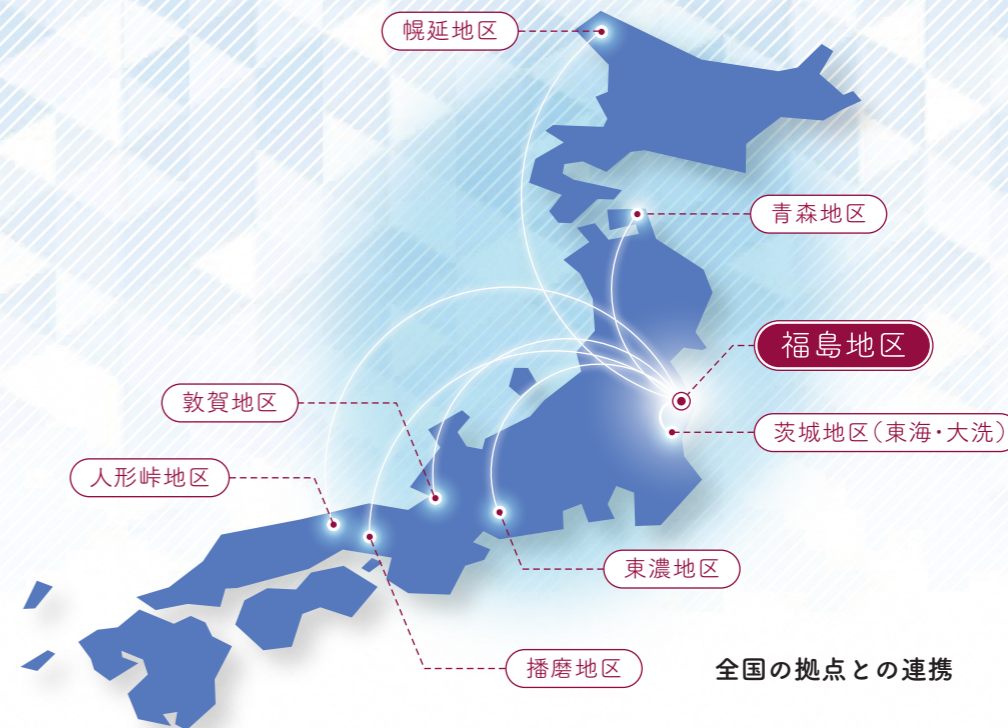


福島の未来を創る

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構(JAEA)は、2011年3月に発生した東北地方太平洋沖地震の発生直後から、国および地元自治体の要請を受け、東京電力福島第一原子力発電所から放出された放射性物質による、環境への影響調査を行なってまいりました。

2015年には福島研究開発部門を発足させ、福島県内に研究開発の拠点を設けることで、より地域に密着した活動を行なっています。

現在では震災から10年以上が経過し、東京電力福島第一原子力発電所の状況や、住民のみなさまの生活を取巻く環境は日々変化しています。福島研究開発部門では燃料デブリ取出し等の技術的に難易度の高い廃炉工程を安全、確実、迅速に推進していくことに加え、安全に安心して生活する環境の整備に向けた、環境回復のための調査および研究開発を行なうことで、これからも福島の未来に向けて、一丸となって進んでまいります。



全国の拠点との連携



2011

作業員サーベイの様子

原発周辺での汚染検査活動を開始

現在も継続して実施しています!



2012

放射線に関するご質問に答える会

地域の皆さまの疑問に答える活動を展開



2013

除染技術実証事業への参加

福島県内各地で実施した除染技術の実証試験

現在も継続して実施しています!



2016

第1回廃炉創造ロボコン

楡葉遠隔技術開発センターで開催



2019

環境放射線のモニタリング・マッピング

避難区域の設定・解除、除染区域の決定等に貢献



2022

放射性物質分析・研究施設(第1棟)完成

大熊分析・研究センターの第1棟運用開始



福島研究開発部門設置

整備を施す地区(浜通り)を中心に

※IRID (International Research Institute for Nuclear Decommissioning) : 技術研究組合 国際廃炉研究開発機構
※CLADS (Collaborative Laboratories for Advanced Decommissioning Science) : 廃炉環境国際共同研究センター
※NARREC (Naraha Center for Remote Control Technology Development) : 楡葉遠隔技術開発センター



福島第一原子力発電所廃止措置に関する研究開発

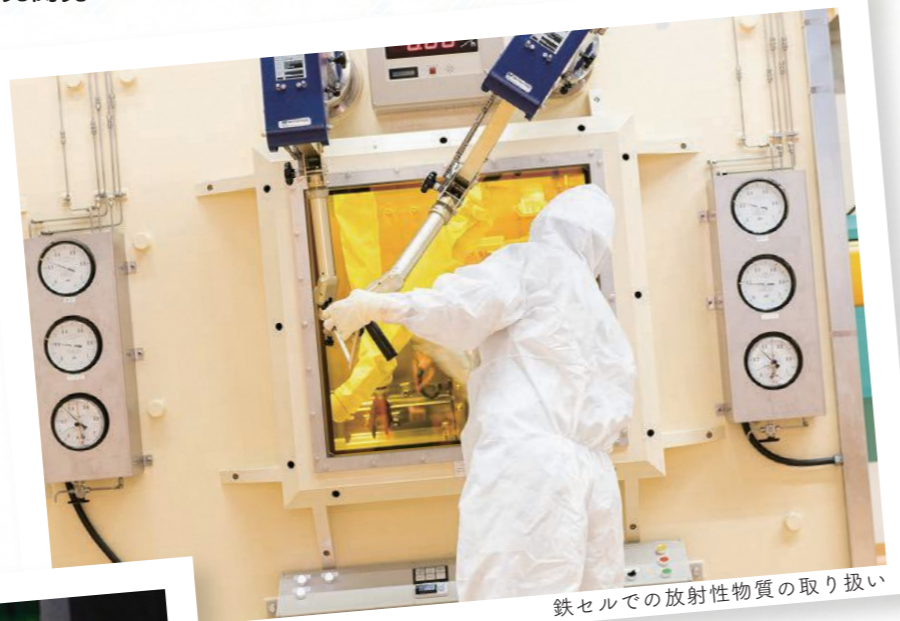


必要な技術を、必要なときに

- 燃料デブリ取り出しや取り扱いに必要な技術の開発
- 将来を見据えた廃棄物処分法の提案
- 全国各地のオールJAEA体制による研究開発



開発した計測器の現場実証



鉄セルでの放射性物質の取り扱い



グローブボックス作業

私たちは原子力科学の
スペシャリストとして
福島復興に貢献します。

福島復興再生基本方針を踏まえた
地元のニーズに応える環境回復研究



より早く、そして正確に

- 従来よりも迅速かつ詳細な環境中の放射性物質の把握
- 放射性物質の動きを知る
- 高度なシミュレーションによる将来予測



シミュレーションによる将来予測



無人ヘリによるモニタリング

共通基盤技術開発と研究基盤整備



知識と技術の集結

- 遠隔計測装置の開発
- 研究施設整備とその活用
- 産学官連携プラットフォームの形成



世界中の専門家による国際会議



調査・分析の結果は？



一般の方にもわかりやすい形で
ホームページでも公開しています。

faceis.jaea





安全確保

安全確保の徹底は、私たちの最優先事項です。

放射線安全の確保

作業場所の放射線量や空気中の放射性物質濃度を監視し、作業者の被ばく管理・放射線安全に努めています。



作業場所における放射性物質濃度測定

危機管理能力の向上

事故・トラブルが発生した場合に迅速に対応するため、定期的に教育・訓練を実施し、従業員一人ひとりの危機管理能力の向上に取り組んでいます。



事故対応訓練

地域活動

皆さまとコミュニケーションをはかりながら、私たちを知っていただく場を多く設けています。

●科学的根拠に裏付けられた研究成果を、皆さまにお届けしています。



福島研究開発部門成果報告会

●これからの未来を担う世代に向けて、理科教室やイベントを実施しています。



ならはっ子こども教室

●県内の高等専門学校や大学と協定を結び、地域に根差した人材育成を行っています。



第6回廃炉創造ロボコン

●ホームページ、広報誌等で研究開発成果、事業活動の様子を発信しています。



広報誌「明日へ向けて」

イベント案内はコチラから！



そのほか、施設公開や地域のイベントにも出展しています

数字で見る福島研究開発部門

福島研究開発部門
所属本務人数(直接雇用者)

約 **300** 名



各センター等の人数

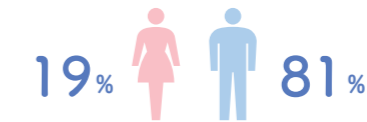
- CLADS 約 **140** 名
- NARREC 約 **30** 名
- 大熊分析・研究センター 約 **90** 名
- 管理・支援組織 約 **50** 名

※概算のため合計値と差異があります

平均年齢

43.9 歳

男女比率



活躍する外国籍研究者・技術者

14 名

(2022年9月現在)

論文等発表件数
(2015~2021年度)

537 報

査読あり論文数

398 報

口頭発表件数
(2015~2021年度)

1,229 件

NARRECに訪れた
見学者数
(2015~2021年度)

22,057 人

NARRECの
施設利用実績
(2016~2021年度)

383 件

CLADSに訪れた
見学者数
(2017~2021年度)

3,354 人

アウトリーチ活動の回数
(イベント出展、出張授業等)
(2015~2021年度)

219 回

